



議員 糸原 文昭
いとほら ふみあき

質問

仁多米のブランド強化は

町長

世界農業遺産のPRを



コシヒカリの作付け

質問 奥出雲町産コシヒカリは、最高レベルの食味と品質を高く評価されている。今後どのように仁多米のブランド力を強化していくのか。

町長 奥出雲仁多米株式会社による高価格販売に努める。世界農業遺産のロゴなどを活用し、消費者

に世界農業遺産の町で収穫された高品質でおいしいお米と一目で分かるような取り組みやPRを行う。

質問 奥出雲町は、夏場を中心に高温化している。今後、気候変動を踏まえ、コシヒカリをどう守っていくのか、また品種転換の考えは。

町長 関係機関と連携し、引き続き情報収集等に努めていく。実証栽培を重ねながら、食味の良さや栽培のしやすさなどの研究を進めていく。

質問 「ゆうだい21」や「島系84号」などの耐暑性のある品種について、今後これらの米の位置づけや活用方法をどう考えていくのか。

町長 令和8年度は、町内の農事組合法人が「ゆうだい21」を試験的に栽培される予定である。将来的に「ゆうだい21」について米・食味分析鑑定コンクール国際大会への出品やふるさと納税の返礼品などに利用を考えている。



大型機械の導入は省力化となるが、コスト削減には

質問 農業従事者数の減少に歯止めをかける町の方策は。

町長 世界農業遺産の認定もあり、若い世代も農業への関心が高まっていると認識している。このような機運に対し、町として積極的に支援を行う。

農業後継者不足

質問 本町での若者や新規就農者の誘致、定着を促進するために、今後どう取り組みを強化していくのか。

町長 若者や新規就農者の定着を進め、仁多米の生産や農地を維持し、意欲ある人材を育てることが重要である。また、仁多米の安定生産と経営改善のために、コスト削減やスマート農業による省力化、安全で高品質な米づくりなど、継続的な努力が必要である。

その他の質問

高齢者の地域との関わり